



全体で、「七十億円もの資金不足」になっても、ひたすら事業推進をしてきた責任は誰が取るのか、また、そのことを誰が決裁をしたのかなど、重要案件が結果としては委員会として調査しきれなかったことは残念であり、関係者内での反省と、将来にわたって「まだ、表面に出ていない隠れた真実」があるのかどうかを明確にしてもらうことを期待しておきます。

第三街区再開発組合が建設をした アイふきやビルも「未払い」です

アイふきやビルを推進してきた、第三街区組合の理事長 市村嘉一郎氏は、「私は、全てのことを知らない、補助金申請も知らない。」と全く、無責任極まりない、驚くべき証言を繰り返してきました。資金流用問題とは直接関係しない部分ですが「偽証罪間違いない」と委員会で判断をしていましたが、平成十七年五月十九日になって「全ての証言が間違っていました。お詫び申し上げます。」との証言を行い、偽証罪での告発はなくなりましたが、委員会と市民のみなさんに重大な「混乱を与えた」のは事実であり猛反省を促しておきます。

(中央街区組合から八億五千万円の不正 流用が未解決です)

第三街区事業全体で言えば、まだ組合の解散ができていませんし、中央街区組合から八億五千万円を「不正流用」しており、その返済をしていません。この資金流用については、中央街区組合員のみ

が「責任をとる」という解決になっております。南新座再開発組合、アリコペールしんぎビルに關係して、津山商業開発(株)をワンクッションおいてはいますが、六億円の「保留床」の売れ残りが本来は表面化しておくべき資金であることが判明しました。この点も含めて、南新座再開発組合と第三街区組合と、双方にも「一定の責任をとってもらう必要がある」と委員会では論議を深めたことを指摘しておきます。

アリコペールしんぎ、アイふきや、アルネ津山は、基本的には、別々の再開発組合であり、資金も独立して清算される必要がありますが、それを「連鎖式」と称して、最後の「アルネ津山に全ての資金不足処理」を持ってきています。これについては、準備段階からの資金貸付を行った「中国銀行をメインとする銀行団」の巧妙な「資金借り換え措置」によるところが大ですが、津山市、デベ・コンサル、中央街区組合それぞれに、「親方日の丸」式の無責任さ、最後は「行政が責任をとってくれる」ということが案に黙認されてきたのではないかと指摘をしておきます。